

コロナ禍における若者の移住動向調査

【 結果レポート 】

2022年3月

* 本調査は、一般社団法人 移住・交流推進機が
株式会社共同通信社に委託し実施いたしました。

1. 調査概要

【 調査目的 】

東京圏の人口一極集中と地域の人口減少問題を解消するために、地方が都市住民を受け入れる移住や関係人口、交流人口の増加につながる地域交流を推進することが求められている。特に、近年では、新型コロナウイルス感染症拡大により、地方移住の機運が高まりつつある。

JOINでは2017年に、移住に興味がある東京圏の若者に対し、移住をより具体的に進める場合の条件などについて調査を行った。

- ・「仕事」について、どのぐらいの収入のどのような仕事が望まれているのか
- ・「住まい」について、どのような住環境が望まれているか、
- ・移住先での「子育て」について、どのようなものが求められているか

5年が経過し、さらにコロナ禍という未曾有の危機を経たことにより、若者の意識に変化がみられるのか、今回あらためて調査を行う。

なお、前回の調査との比較のため、調査は既婚世帯に限定して行った。

【調査概要】

- ・ 調査方法 ウェブモニターアンケート
- ・ 対象地域 東京圏（東京都・埼玉県・神奈川県・千葉県）
- ・ 実施期間 2022年3月18日（金）～23日（水）
- ・ 調査対象者 20代～30代の既婚男女で、地方への移住に興味がある500人
（設問Q1.で地方への移住の興味の有無を確認し、「興味あり」「やや興味あり」「どちらかというに興味あり」と回答した人が、続く設問に回答）

1. 調査概要

【 設問 】

(以下9問は2017年に引き続き実施)

- Q1. 地方への移住に興味がありますか？
- Q2. 移住に興味がある理由を教えてください。
- Q3. 地方へ移住するとしたら、移住先での住宅について優先する条件を教えてください。
- Q4. 移住にあたって勤務先が変わるとして、重視する仕事の条件を教えてください。
- Q5. あなたが地方へ移住する事を考えるにあたりどのような制度があると良いと思いますか。
- Q6. あなたが仮に移住先で子育てををするとして、移住先の子育て環境について、重視する条件を教えてください。
- Q7. Q6で選択した子育て環境が移住先にあるかどうか調べるために、有力な情報源は何だと思いますか。
- Q8. あなたが仮に移住先で子育てををするとして、不安に思う事を自由にお書きください。
- Q9. あなた自身について、地方への移住を妨げている大きな要因は何ですか。

(以下 3 問は今回の調査で新たに実施)

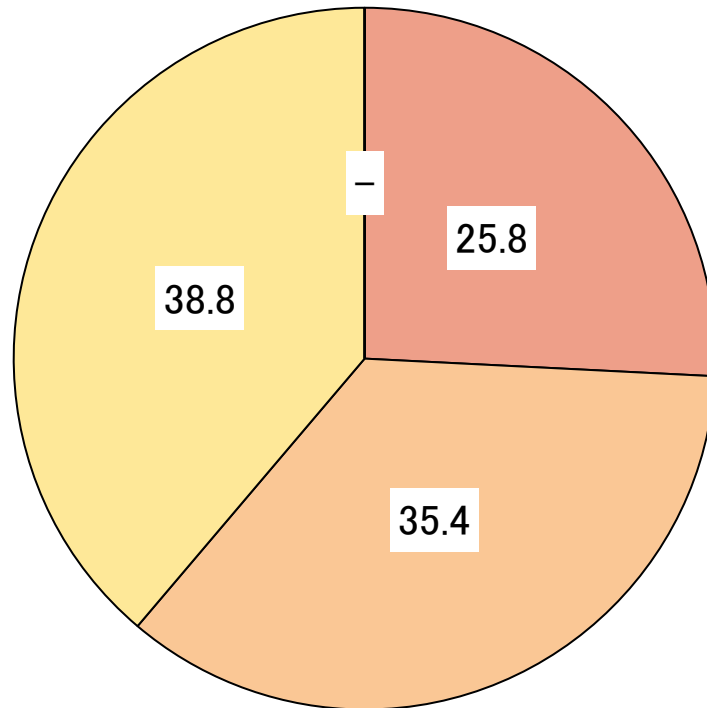
- Q10. 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、移住に対する関心は高まりましたか。
- Q11. 移住に関する施策について、いま興味があるものを選んでください。
- Q12. 移住に関する施策について、実際に体験したことがあるものを選んでください。

2. 調査結果

【Q1. 地方への移住に興味がありますか？】

- 「地方への移住に興味がある層」を選択するにあたり「興味あり」（25.8%）、「やや興味あり」（35.4%）、「どちらかというに興味あり」（38.8%）と答えた層を、Q2以下の対象とした。
- 性別では男性229人、女性271人。年代別では20代65人、30代435人から回答を得た。
- なお性年代の内訳は20代男性は16人、30代男性は213人、20代女性は49人、30代女性は222人。

■興味あり ■やや興味あり ■どちらかというに興味あり ■どちらかというに興味なし ■あまり興味なし ■興味なし

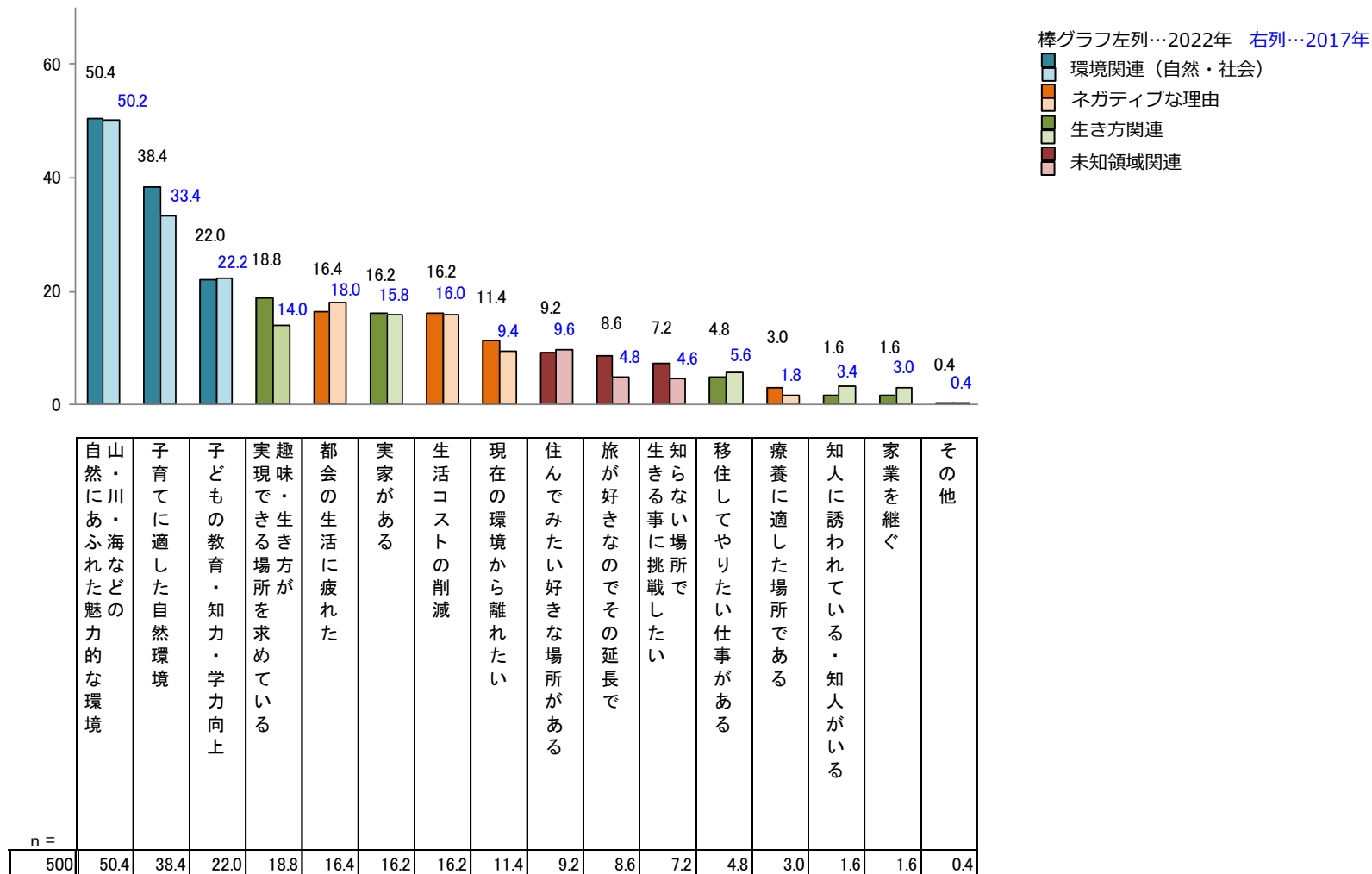


n=500

2. 調査結果

【Q2. 移住に興味がある理由を教えてください（複数選択）】

地方への移住に興味を持つのはどのような理由によるものか尋ねたところ、「山・川・海などの自然にあふれた魅力的な環境」（50.4%）、「子育てに適した自然環境」（38.4%）と「自然環境」にまつわる選択肢を選んだ人が最も多く、次いで、「子どもの教育・知力・学力向上」（22.0%）と「社会環境」にまつわる回答が多くなった。2017年に実施した調査とほぼ同様の傾向となった。

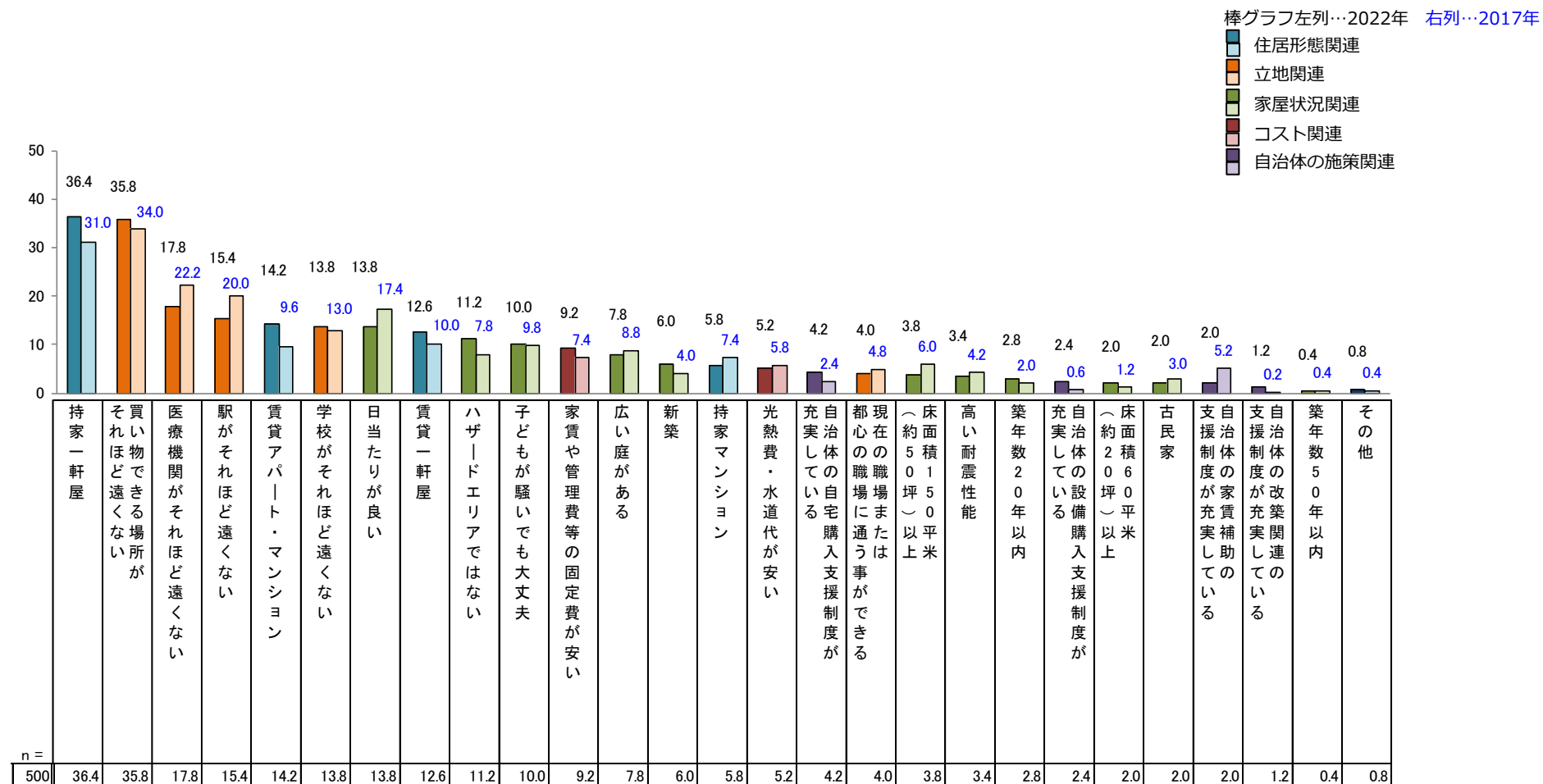


2. 調査結果

【Q3. 地方へ移住するとしたら、移住先での住宅について優先する条件を教えてください（複数選択）】

移住先での住まいの条件について、多かったのは「持家一軒屋」（36.4%）、「買い物できる場所がそれほど遠くない」（35.8%）、「医療機関がそれほど遠くない」（17.8%）だった。

2017年に実施した調査では立地に関する条件を優先する人が多かったが、今回は「持家一軒屋」「賃貸アパート・マンション」など住居形態に関する条件を優先する層が増えた。

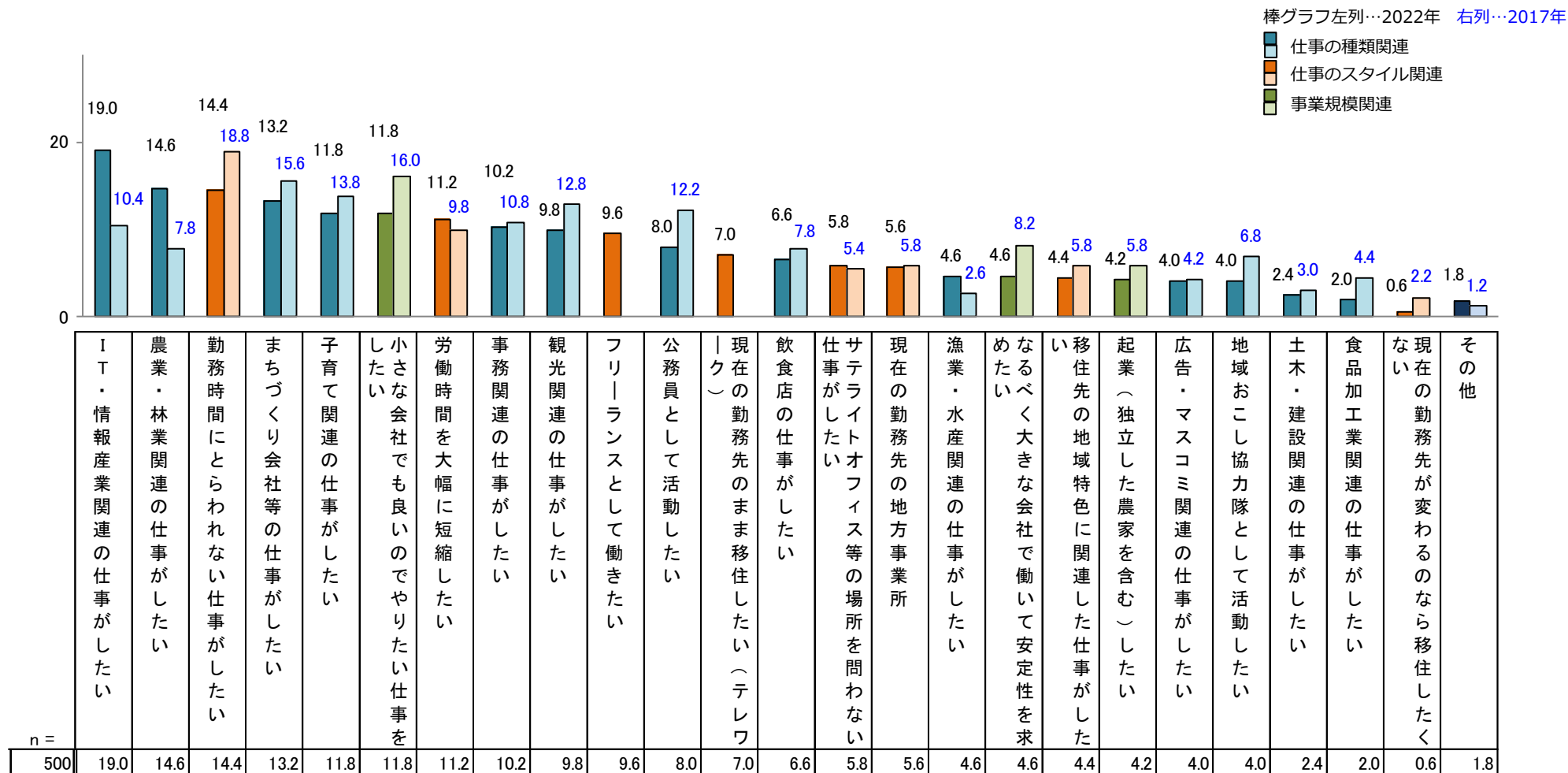


2. 調査結果

【Q4. 移住にあたって勤務先が変わるとして、重視する仕事の条件を教えてください（複数選択）】

移住先で重視する仕事の条件として多かったのは「IT・情報産業関連の仕事がしたい」（19.0%）、「農業・林業関連の仕事がしたい」（14.6%）、「勤務時間にとられない仕事したい」（14.4%）だった。

2017年の調査と比較すると、仕事の種類としてIT・情報産業、農業・林業の仕事を希望する層が特に増加している。



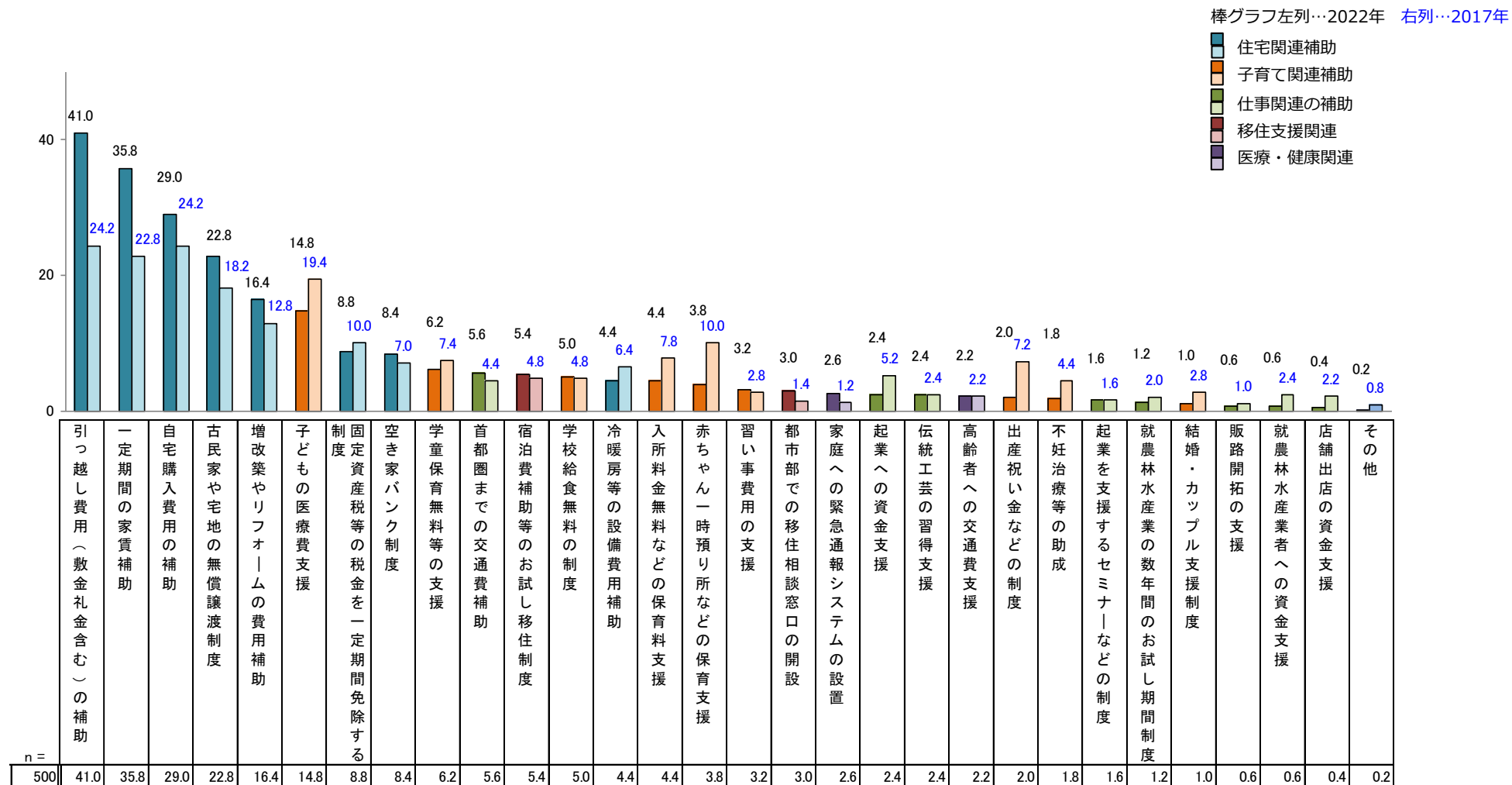
※選択肢のうち「フリーランスとして働きたい」「現在の勤務先のまま移住したい（テレワーク）」は、今回新たに設けた。

2. 調査結果

【Q5. あなたが地方へ移住する事を考えるにあたりどのような制度があると良いと思いますか(複数選択)】

移住を希望する人たちが移住先で望む制度について「引っ越し費用（敷金礼金含む）の補助」（41.0%）、「一定期間の家賃補助」（35.8%）、「自宅購入費用の補助」（29.0%）と、住宅に関連する補助を挙げた回答者が多くを占めた。

2017年の調査と比較すると、引っ越し費用や一定期間の家賃補助を希望する層が特に増加している。

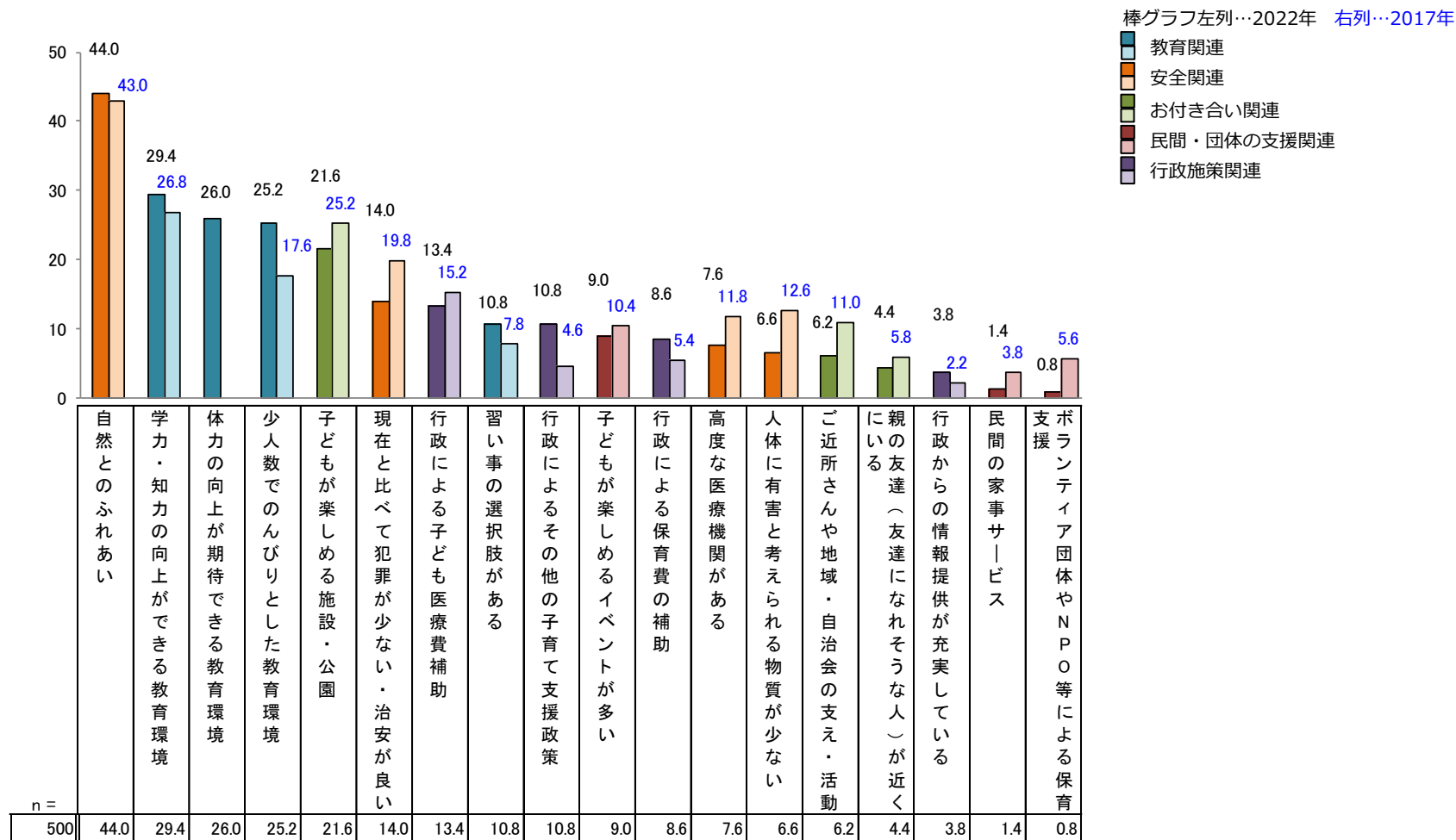


2. 調査結果

【Q6. あなたが仮に移住先で子育てををするとして、移住先の子育て環境について重視する条件を教えてください（複数選択）】

移住先で子育てをする場合、最も重視するという回答が多かったのは「自然とのふれあい」で44.0%。以下「学力・知力の向上ができる教育環境」（29.4%）、「体力の向上が期待できる教育環境」（26.0%）となった。

「自然とのふれあい」を挙げる回答が2017年同様最も多かったが、今回の調査では教育関連の条件を優先する層が増えた。

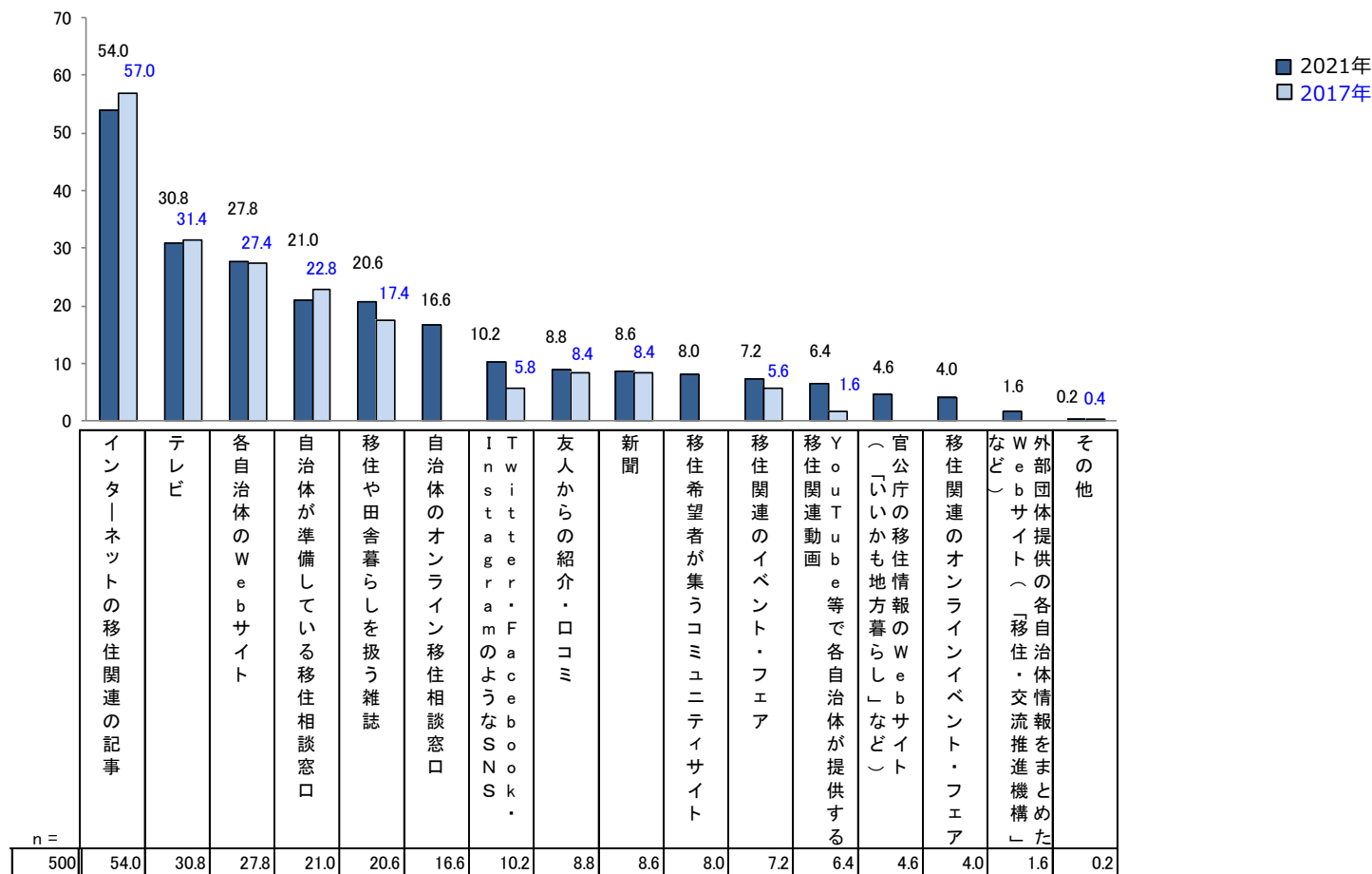


※選択肢のうち「体力の向上が期待できる教育環境」は、今回新たに設けた。

2. 調査結果

【 Q7. Q6で選択した子育て環境が移住先にあるかどうか調べるために、有力な情報源は何だと思いますか(複数選択)】

移住先の子育て環境を調べるためにどんなメディアを情報源とするか尋ねたところ「インターネットの移住関連の記事」が54.0%となり、「テレビ」(30.8%)、「各自治体のWeb サイト」(27.8%)が続いた。また、回答数としては大きくないが「Twitter・Facebook・InstagramのようなSNS」「YouTube等で各自治体が提供する移住関連動画」に伸びがみられた。さらに、今年の調査で新たに加えた項目では「自治体のオンライン移住相談窓口」が16.6%、「移住関係のオンラインイベント・フェア」が4.0%となった。



※選択肢のうち「自治体のオンライン移住相談窓口」「移住希望者が集うコミュニティサイト」「官公庁の移住情報のWebサイト」「移住関連のオンラインイベント・フェア」「外部団体提供の各自治体情報をまとめたWebサイト」は、今回新たに設けた。

2. 調査結果

【Q8. あなたが仮に移住先で子育てををするとして、不安に思う事を自由にお書きください】

●人間関係

- ・周りに溶け込んでいけるか、お友達ができるかどうか（神奈川県 女性 34歳）
- ・実家が遠くなる（東京都 女性 31歳）
- ・知り合いがいないのですんでいる人と仲良くなれるか。子供同士が喧嘩したときどう対処するか（人が少ないので人同士の繋がりが強いと思うので印象が悪くならないか心配）、子育ての相談先があるか（埼玉県 女性 38歳）
- ・知り合いや親族など頼れる人がいないので、行き詰まった時に辛くなりそう。子供に障害がある為、支援サービスが充実しているか、医療機関はどうかも気になる（埼玉県 女性 37歳）
- ・子供同士（同年代）の付き合いが学校外でもあるかどうか。ご近所さんとほどよい距離感を保って付き合えるか（神奈川県 女性 36歳）

●教育

- ・スムーズに幼稚園・保育園に入れるか 医療制度の引き継ぎ（予防接種・検診）（神奈川県 女性 32歳）
- ・移住先で充実した教育を受けられるか、子育てのサポートを受けられるかが心配（神奈川県 男性 37歳）
- ・学校の数の少なさ、通学が車必須にならないか（埼玉県 女性 33歳）
- ・学力の競争相手が少ないこと（千葉県 女性 28歳）
- ・教育の選択肢が少なくなること（受験できる学校や、進学先の選択肢が少ない）（東京都 女性 34歳）

●医療

- ・医療機関が充実しているか（東京都 女性 30歳）
- ・医療機関の場所。近いところにあるか。深夜もやっているところはあるか（神奈川県 女性 36歳）
- ・免許が無いから病気になった時もタクシーや救急車などに頼らないといけないのと近くに信頼出来る人が居るのかが心配（東京都 女性 34歳）

●仕事

- ・給料が下がると暮らしのレベルが下がって満足な子育てが出来ないかもしれない（東京都 男性 36歳）
- ・今の会社が遠隔地勤務制度を撤廃しないか（神奈川県 男性 30歳）
- ・収入が減少したり、安定した仕事が見つからないことです（千葉県 女性 34歳）

●治安・安全

- ・治安の悪さや人通りの少なさ（埼玉県 女性 31歳）

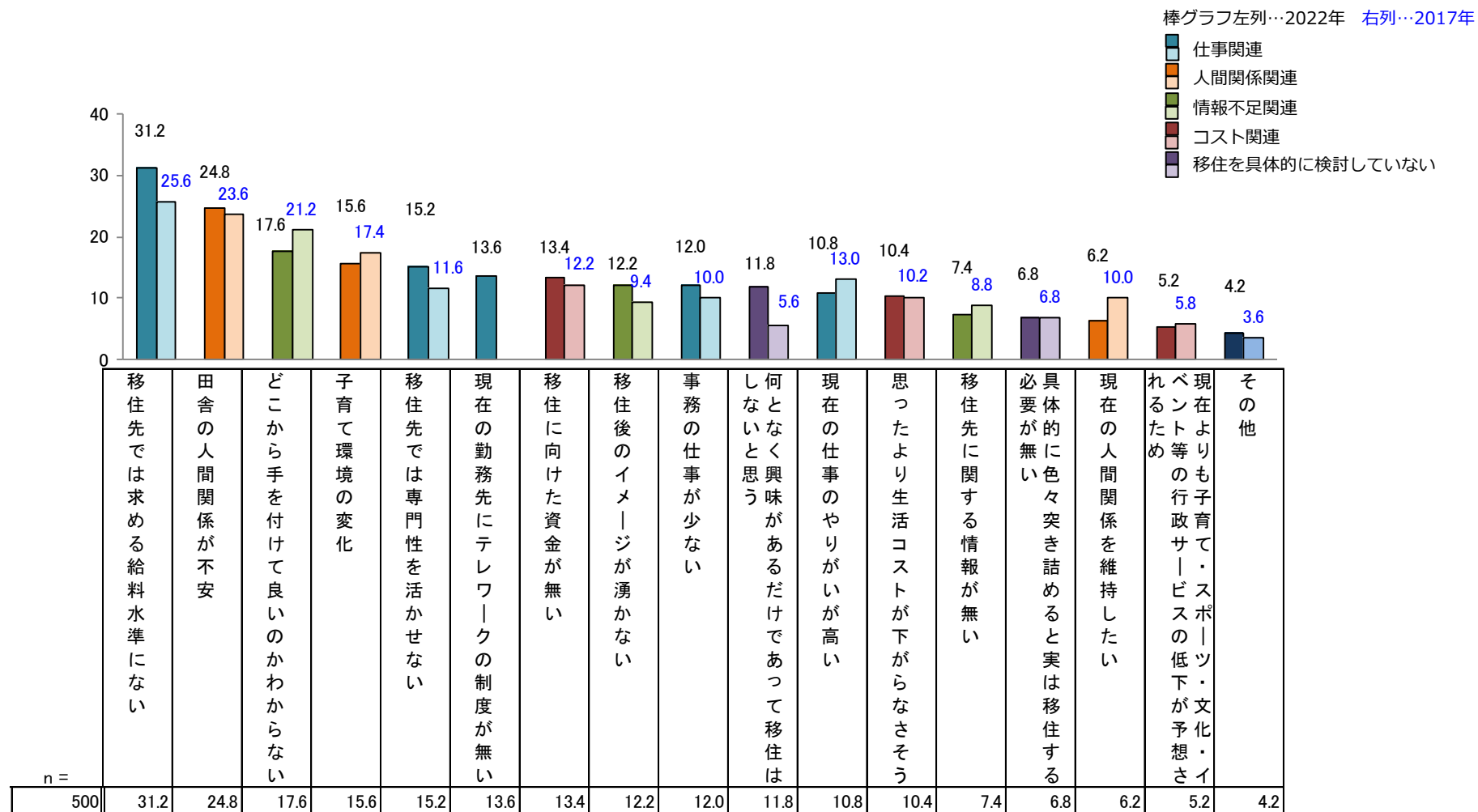
●その他

- ・あまり不安はない。現在住宅ローンがあるので移住に躊躇しているがなかったらすぐにでも移住したい（神奈川県 女性 37歳）

2. 調査結果

【Q9. あなた自身について、地方への移住を妨げている大きな要因は何ですか(複数選択)】

移住を妨げている要因を尋ねたところ「移住先では求める給料水準にない」(31.2%)、「田舎の人間関係が不安」(24.8%)、「どこから手を付けて良いのかわからない」(17.6%)が挙げられた。また、「移住を具体的に検討していない」と考える層も一定数挙げられた。



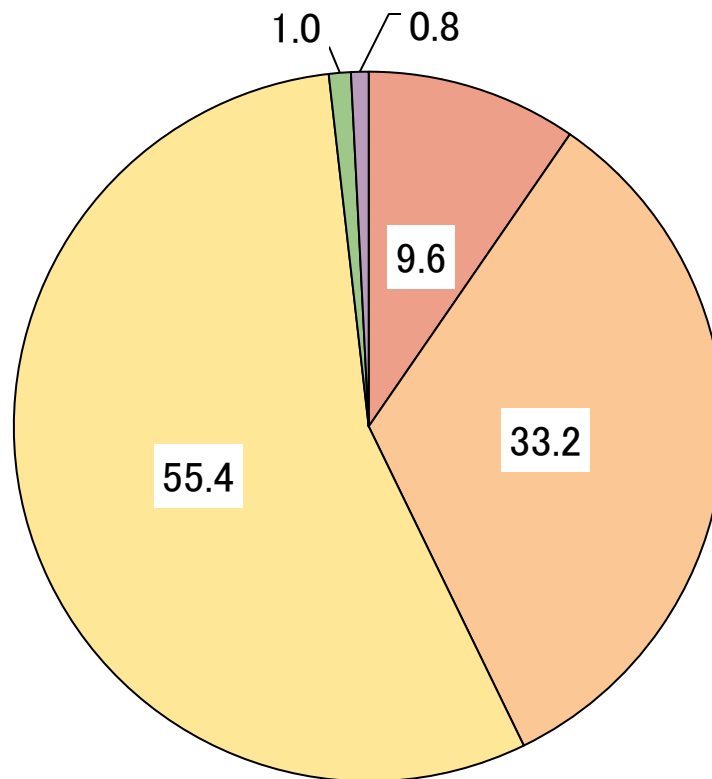
※選択肢のうち「現在の勤務先にテレワークの制度が無い」は、今回新たに設けた。

2. 調査結果

【Q10. 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、移住に対する関心は高まりましたか】

もっとも多かったのは「どちらでもない」(55.4%)だが、「高まった」「やや高まった」の合計が42.8%と、移住に対する関心の高まりがうかがえる。「下がった」「やや下がった」の合計は1.8%だった。

■高まった ■やや高まった ■どちらでもない ■やや下がった ■下がった



n = 500

2. 調査結果

【Q11. 移住に関する施策について、いま興味があるものを選んでください(複数選択)】

【Q12. 移住に関する施策について、実際に体験したことがあるものを選んでください(複数選択)】

移住に関する施策について、興味があるものと実際に体験したことがあるものを聞いたところ、「テレワーク」「ふるさと納税」を挙げた人が多かったが、これらは興味を持った層と体験したことがある層の数値が近かった。一方で「体験したことがあるものはない」と答えた人が33.0%おり、「お試し移住」「ワーケーション」「二地域(多地域)居住」「別荘」「空き家バンク」などについては、興味を持っている人と体験した人の数に乖離が見られた。

